

続けていくこと、変えていくこと



工藤桂輔 [くどう・けいすけ]

介護老人保健施設永寿苑（福岡県）

施設紹介

当施設のある須恵町は若杉山や須恵川など自然豊かな環境に恵まれ、近年は福岡市のベッドタウンとして人口が増えている住みやすい地域です。当施設の隣には来年開業50年を迎える泰平病院や種々の併設介護施設とともに、利用者の皆さまが安心して地域で生活を送れるよう複合的なサービスの提供を行っております。

このような環境のなか、私たちリハビリ専門職は、入所者の個別訓練や季節ごとのレクリエーション、通所リハビリなど理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が他職種とのチームワークを大切にしながら療養・在宅生活の支援を行っています。また、ショートステイ利用者の心身機能の維持改善、ご家族の介護負担の軽減につながるリハビリを提供しています。定期的な検討会やカンファレンス、会議では、リハビリ専門職から積極的に発信を行い、サービスの質向上をめざして日々奮闘しています。

はじめに

私は作業療法士として新卒で医療法人成雅会に入職し、今春でちょうど15年となります。泰平病院で約10年間を疾患別リハビリとともに、訪問・通所リハビリ業務などに従事して参りました。老健施設では通所リハビリ開設時より貴重な経験をさせていただき、現在は永寿苑での業務を中心に、老健部会や多職種連携など、地域とのつながりを大事にしながら仕事に取り組んでおります。

私の特技の1つに段ボール工作があり、これまで、

リハビリ用マシンのペダルに足が届かない方のための足載せ板や、行事用の被り物を製作した他、入所中は季節感があいまいになりがちなので、コロナ禍初期につくった高さ80cmアマビエに季節の衣装を着せたり、干支の置物を製作して飾ったりと、特技を活かしながら働けていると感じています。

続けていくこと、変えていくこと

当施設の通所リハビリを利用されている方は、身体機能が比較的高い要支援1～2の方が多く、掃除や洗濯、食事の準備等のADLもおおむね問題なく、自立して生活されている方が大半を占めています。リハビリにおける長期目標も、ご利用者によって多少違いはあれど、「現在の在宅生活を継続して行えること」がほぼ共通のものとなっていましたので、訓練プログラムは筋力や歩行能力の維持、慢性的な痛みの緩和等を短期の目標としたマシントレーニングや歩行訓練が中心となっていました。

ご利用者のその日の体調や体力の低下等に合わせ、て負荷を変更することはあっても、プログラムを大きく変更したり新しい訓練を導入したりすることは、頭の隅にアイデアとして浮かぶことはあっても、なかなか実行に至らないというのが通常だったように思います。

2023年10月、変化は少ないながらも穏やかな雰囲気だった当施設の通所リハビリに、ご利用者のなかでは最も新規のメンバーにあたる80代の男性が通い始められました。人との交流が苦手とうかがっていたのですが、実際にお話してみると優しく紳士的な方で、休憩時間には職員や他のご利用者、ス